

ポスト冷戦研究会報告

——アジア・中国における情報革命の展開とその世界史的意義——

2001 年 9 月 22 日 立正大学経済学部 五味久壽

1、『グローバルキャピタリズムとアジア資本主義』（1999 年）の問題提起とその後の経過

1、『グローバルキャピタリズムとアジア資本主義』におけるアジア金融危機の歴史的意味付け

- ◆アジア金融危機以後の歴史的経過が、世界経済とアジア経済の分極化を引き起こした
- ◆その結果、世界経済は、中国経済を軸とする再編過程に入った
- ◆中国経済の役割と蓄積過程の確定は、かつての日本が果たした役割との比較を要する

2、世界資本主義（世界市場）の構造変化——世界的な産業構造の再編過程——の展望

3、それが何を意味するのかは、まだ確認されていない。

2、アジア為替決済危機以降のアジア経済の特徴と新産業革命の進行

1、中国経済の台頭と WTO 加盟の意義

2、中国経済の現局面、期区分と企業改革、これと並行する金融改革、中国社会主义の意味の変化

3、新産業革命の進行

3、アメリカテロ事件と世界経済

1、アメリカテロ事件は、世界資本主義の基本傾向を継続するか、それとも新たなハブニングが起こるのか？

2、日本・アジア市場の反応とアメリカ市場の反応

3、通貨統合後のヨーロッパの動向

4、アジアにおける「情報革命」・IT 革命の基本傾向

1、分散・並列・ネットワークシステム化の意味

2、台湾 IT 産業の中国本土移転の評価。台湾 IT 産業の新局面

3、1980 年代の過渡的性格

4、1990 年代における変化

5、製品の内部構造と生産方法の変化／資本にとっての矛盾／企業にとってのデータベース

5、戦後資本主義の時期区分——金・ドルの交換停止か、1973 年恐慌か？

1、宇野原論、鈴木原理論の教科書化、現状分析の外的な物差化、その端緒としての大内理論

2、宇野派の実証分析

3、1920 年代の過渡性、1930 年代の歴史的特殊性、金融資産バブル

4、第二次大戦後のドル・金決済の停止と EC のスネーク